

フライブルク市に「平和の碑」は建たなかったが… 梶村道子(ベルリン・女の会)

9月初旬、ドイツ南西部のフライブルク市に「平和の碑」が設置されるとのニュースが入りました。像は姉妹都市となった韓国のスウォン市からの友好開始を記念する贈物で、フライブルクのザロモン市長はスウォン市を訪問時に碑を見て感動し、市の中心部にある公園への設置も決まったといえます。地方自治体間でのこのような取り決めに喜んだ私たち、ベルリン女の会・韓国協会・独日平和フォーラム・プロテスタント教会ドイツ東アジアミッションは、早速連名でフライブルク市長宛に賞賛の手紙を送ることにしました。しかしその草稿が出来た時点で、市長が像の受理を辞退したと判り、手紙には「残念です。ぜひ再考を！」との一文を添えました。この間わずか2週間でした。

事態の急転の背景を、地元各紙は以下のように報じています。像の設置計画が8月末にスウォン市で発表されると、在ドイツ日本大使館は早速、在ミュンヘン総領事をフライブルク市とバーデン＝ヴュルテンベルク州政府に送り、事態に介入させた。総領事は「アジア式遠慮の片鱗」も見せずに、「像の設置は日独関係において支障をもたらす」との所信をと

うとうと述べた。フライブルク市の姉妹都市である松山市の市長も、像が建つなら姉妹都市協定は解消だと迫った、と。

在ドイツ日本大使館はバーディッシェ・ツァイトゥンク(以下、BZ紙と略)の問い合わせに対し、日本政府は、第三国への〈少女像〉の設置は日本政府の公式立場にそぐわず遺憾だという見解であり、関係各方面にその旨、国の立場を説明した、と答えています。日本側の圧力はこれに止まりませんでした。日本やドイツやアメリカから、多くの抗議メールが市庁舎に届いたといえます。極右「なでしこアクション」のウェブサイトには、市長から市議会の会派代表に至るまで、抗議メールの詳細な宛先が掲載されていました。

環境行政で知る人ぞ知るとはいえ、フライブルク市は地方の小都市。この「国を挙げての抗議」に町は驚愕し、地元メディアが呆れかえってこれを報じたのも肯けませぬ。「自国の歴史の暗部を想い起こされたからと、上級外交官に至るまで世界中の日本人がたけり立つとは、不可解至極。松山市は姉妹都市提携をやめると脅すが、それとこれとは

別」(BZ紙)、「日本のやり方は、総じて紳士的で控えめとはいえない難い」(フランクフルター・アルゲマイネ・ツァイトゥンク)、「世界各地から抗議メールが市庁舎を爆撃」(ズート・クーリエ)、「日本の外交がキレた」(シュトゥットガルト・ナツハリヒテン、以下StN紙と略)などなど。

突如、安倍外交の俎上に置かれ立ち往生したザロモン市長は結局、スウォン市のヨム市長の了解のもとに「日本のために慰安婦を犠牲」(StN紙の見出し)にしました。しかし、ザロモン市長が初心を忘れたわけではありません。今回、日本の戦争犯罪を想起する碑をフライブルク市に建てることの是非をBZ紙に問われて、それはどう評価するかの問題だと答えて

います。「二度と起こしてはならないとの思いから、日本に限らず、ドイツ国防軍も犯し、旧ユーゴスラヴィアでも起こり、ISにより現在も進行形の戦時性暴力に反対するのだと、スウォン市で我々は語りあったのです。碑はそれを表象するものです」。正直なところ屈したくはなかったが、松山市との関係を危険にさらすわけにはいかなかった、と市長は述懐したそうです(StN紙)。それなら今一步踏ん張って欲しかった…。地元

紙の女性読者もそのような感想を書き込んでいました。

「平和の碑」のフライブルク市への設置は安倍政府の圧力により潰えましたが、日本軍性暴力の記憶をめぐる議論はドイツでその端緒を切ったと言えます。被害者らが求める記憶事業を日本政府が切り捨て、被害国に建つ記念碑の撤去を主張し続ける限り、日本軍「慰安婦」被害者の痛みを共有し、戦時性暴力の廃絶を求める碑は、ヨーロッパにもいづれ建つことでしょう。それに先駆け、今年のメモリアル・デーには生きている「平和の碑」が出現しました。今回は複数の被害国の「碑」です。前回報告した一人デモも続いています。ここでも最近のテーマは「平和の碑」。像のミニチュアを置いてみたり、画像で国会議事堂前に立たせてみたり。望ましいヴィジュアルな記憶の形を手探りしつつ立っているこの頃です。



フライブルク市のザロモン市長(緑の党、【左】)とスウォン市のヨム市長【右】。バーディッシェ・ツァイトゥンク(オンライン版)より。写真はギュンター・ブルガー撮影。



一人デモ用のプラカード(撮影:筆者)



今年の日本軍「慰安婦」メモリアル・デーには、生きている各国「少女像」が登場。2016年8月13日、ベルリン市にて。(撮影:梶村太郎)